

2023年度総会ご挨拶

2021年に桜美林学園は、その前身の北京崇貞学園から数えて100周年を迎え、昨年は1年遅れで5月に学園イベントの100周年記念式典が荊冠堂チャペルで、11月には、学園、同窓会、大学校友会協働による「100年桜まつり」が町田キャンパスで開催されました。

桜美林学園同窓会は今年で67周年を迎えました。設立以来、同窓生向け会報の発行、桜まつり、リ・ユニオン、賀寿礼拝、中高成人式茶話会、全国支部長会議の開催、地域支部の設立、支部リ・ユニオン開催支援、大学祭、中高文化祭支援等の活動を行ってまいりました。学園同窓会は、旧高等女学校、中学、高校、短大、大学、大学院まで、幼稚園以外すべての卒業生が会員となっています。任意団体として卒業生同士の親睦、母校の発展に寄与することを目的としています。

一方、皆様ご存知のように2019年に学園主導で大学校友会が設立されました。校友会は、短大・大学・大学院の卒業生を中心に在学生、教職員など大学に関わる方々の親睦と在学生の支援、母校の発展を目的にしており、昨年一般社団法人になりました。ホームカミングデーの開催、学生の就職を始め、卒業生同士の職域毎の繋がり構築にも力をいれております。

2020年以降は、コロナ禍で学園に関係するほとんどのイベントが開催出来ない状況が続いたこともあり、直接、卒業生の声をお聞きすることがありませんでしたが、昨年対面による地域支部リ・ユニオン、前述の100周年イベント等、学園、同窓会、大学校友会イベントが再開され、卒業生の皆さまから、学園同窓会と大学校友会の違い、役割分担等の質問を受ける機会が増え、今後の学園卒業生組織を見直す必要性が出てまいりました。つまり、桜美林学園の同じ設置校を含む卒業生組織が複数存在することは、非常に分かりにくいという事です。

今年に入り、学園、校友会、同窓会で話し合いを重ね、新たな学園卒業生組織案を検討してまいりました。具体的には、アンブレラ型、傘型組織として、仮称「社団法人 桜美林学園連合同窓会」を新設し、そのアンブレラのもと「大学校友会」、そして新たに「中高卒業生組織」を設置するというものです。会社組織でいうところのホールディングス制を採用し、重要事項、調整事項については新設する仮称「連合同窓会」が担当し、「大学校友会」、「中高卒業生組織」は事業会社として独立性をもって各設置校卒業生対象事業(例えば、大学全体事業、中高全体事業、クラス、学年、学部、学群、ゼミ、クラブなどの事業)を行うというものです。

但し、リ・ユニオンを始めとする学園全体イベント、地域支部、職域別活動、学園同窓会だよりの発行については、連合同窓会のもと、タスクホースとして「大学校友会」と「中高卒業生組織」が合同で企画、催行、発行致します。

学園卒業生は今年3月で12万1千人を超えました。一方、昨年の日本の出生数は80万人を下回り、今後も減少傾向が続くことが予想されます。

これからは学園全体として入学者の人数と質をいかに確保していくかが大きな課題となり、学園卒業生組織の役割も更に大きくなることが考えられます。学園に寄り添える卒業生組織として、重要課題である、地域、職域、その他様々な卒業生ネットワーク作りのためにも、同窓生の母体となる卒業生組織が一本化することは大きな意義があり、より効率的な運営が可能になると考えております。

これからも諸先輩方が築かれてきた67年の同窓会の歴史を大切にしながら、同窓会と学園の更なる発展に寄与できるよう、活動を続けていきたいと思っております。本日の総会では、今後の方向性についてご報告させて頂きましたが、来年の総会では、より具体的な組織案、社団法人としての定款案、運営方法等をご提案させて頂きたいと思っておりますので、引き続き同窓生の皆様のご理解、ご協力をお願いして総会のご挨拶とさせていただきます。

2022年6月11日
同窓会会長 山本美浩